



令和5年度 幼児教育研修（資質向上 加藤ゼミ 第1回）
 「心の育ちと対話する保育実践」
 日時：令和5年7月20日（木）15：00～17：00
 会場：足立区梅田地域学習センター
 講師：山梨大学 名誉教授 加藤 繁美 氏

加藤ゼミでは、「対話する保育」について学びを深め、実践記録をもとに語り合い、講義を通して自分たちの保育を分析していきます。

継続研修の1回目は、子ども声を聞き、本当の気持ちを汲み取る「対話する保育」について、講義をしていただいた後、実践記録をもとに「分析」のポイントを学びました。

保育者の専門性を構成する2つの要素

- A** 保育の理論学習を通して形成された「**概念的知性**」
 ⇒ みんなが同じ本を読めば、同じことを学べる。本で学んだ言葉の知識のことをいう。
- B** 経験によって身体的に形成された「**直感的応答力**」
 ⇒ 勘やコツといった身体的能力のこと。
 アスリートで言えば、どのような状況でも対応できる人のことをいう。

～子どもと保育者の事実の中にある、真実を読み取る～

午睡の時間になってもNちゃんとYちゃんは、おしゃべりをしたり、毛布をパタパタしたり、寝る様子がない…。



子どもの気持ちに寄り添っているのに言うことを聞いてくれない。



伝え方を変えた方がいいのかしら？

早く寝てくれないとおやつ
の時間に起きられなくなっちゃう。

保育者の思い・あせり

やりたいことを保障してあげたいけれど、この時間はダメだよね…。

保育者の思いを聞いてもらうためには、**子どもとの関係性が築かれなければならない。**

- *「子どもの声」を聞き、**共感**する。(共感性)
- *「子どもの声」に**応える**。(応答性・ひらめき力)



NちゃんとYちゃんは、2歳にして**親友の関係**だと読み取る。
 一緒にいることが楽しくて、寝ている時間がもったいないくらいなのかもしれない。

～実践記録の分析をしてみよう～



実践記録 1

3歳児クラスの「死んだごっこ」
大人がしてほしいくないテーマのごっこ遊びが始まったらどう対応する？

1日目

Yちゃんが床に転がっていると、Eちゃんがやってくる。
「あっ、Yちゃん、死んでる！」
Yの足や手を動かす。
「動かないね」

2日目

Yちゃん、笑いながら横になる。
「頭いたいですか？」
「心臓マッサージする！」
Y:くすぐったくて我慢できなくなり、起き上がってあそびは終了。

3日目

保育者:お母さんたちも、「ぼく明日死ぬよ」なんて言ったら、びっくりするよ。あっ、そうだ。お医者さんごっこなんてどう？
「うん・・・」みんな何かしっくりこない感じだった・・・。



分析のポイント

遊びの本質はどこにあるのかを探る。



子どもたちは、「死」という言葉は知っているが、言葉の意味は理解していない。



「動く・動かない」が対になった遊びのおもしろさに気付いている。



一人は絶対に動いてはいけない子どものルールに徹する遊びを楽しんでいる。



お医者さんごっこには置き換えられない。

実践記録 2

「つながるお家ごっこ」。
保育者は、子どもたちのごっこ遊びに入る？入らない？

自由遊びの時間。段ボールの家やじゃばらの仕切りを使ってお家ごっこが始まっていた。

Yちゃんは、あかちゃん、Rちゃんは、お母さんになって遊びが始まっているところに・・・

保育者:Yちゃんと、Rちゃんは、何役なの？
(子どもたちのやりとりの間に、声をかけ役割を確認する。)

(お家ごっこの様子を、家の外から見ているT君に気付く。)
保育者:T君、入りたいの？「入れて」って言ってみたら？

⋮

保育者:T君、何作ってるの？ T君、何役だっけ？



分析のポイント

保育者は、**ごっこ遊びに**
どう介入すべきか。



子どもたちは、現実の世界から**虚構の世界**へと飛躍し、**虚構の世界**の中で、**共感性**をもって遊びを楽しんでいる。



保育者は、子どもたちの**ルールのある世界**を理解し、見守ることも大切。



現実の世界へひきもどしてはならない。

研修生の報告書より

子どもの行為には必ず意味があるということを心に留め、どこに楽しさを感じているのか、遊びの本質を探る努力を日々していくことが、子ども理解や保育の質を高めていくことにつながっていると学んだ。

ひらめき(直観的応答力)は身に付けることは難しく、培っていくためには保育の記録を書いて読み直したり保育者同士で分析したりしていくと良いということ。そうすることで、何か答えが見えてきて明日の保育につながっていくことを学んだ。